

災害に強い組織づくり

—災害派遣制度「県土整備部災害派遣チーム」の構築—

久保田 恒太

群馬県 県土整備部 建設企画課 (〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1)

大規模自然災害発生時には、多数の被災箇所の発生が予想され、災害査定などの復旧業務に対応するための人員確保が不可欠である。本県ではこれまでの大規模災害に対し、その都度体制を整えて対応してきたが、より迅速に対応するためには事前の体制整備が必要である。そこで、公共土木施設の災害復旧を所管する県土整備部の技術職員による災害派遣チームを編成し、県内外の被災地に適時適切に派遣する災害派遣制度を構築した。同制度では、災害発生地域別に派遣職員を設定し、機動的な体制構築に努めている。また、国土交通省災害査定官等を講師とした研修により専門技術を習得する人材育成の取り組みなどを盛り込み、災害に強い組織づくりに繋がる仕組みとしている。

キーワード 大規模災害、災害復旧、災害派遣体制、災害特別研修、技術力向上

1. はじめに

近年、全国各地で洪水や土砂災害等の大規模災害が頻発している。また、首都直下地震や南海トラフ巨大地震の発生も予想されており、公共土木施設の管理者としては常に災害対応を念頭に置いた組織体制が求められている。

ひとたび災害が発生した場合には、パトロールによる被害状況の把握や住民対応、関係機関との連絡調整など多忙な状況が想定される一方、災害復旧事業の手続きとして、図-1 のとおり被災後（災害終息後）10日以内に災害報告、1ヶ月以内に災害報告の訂正報告、2ヶ月以内に災害査定の実施などの作業を進めなければならない。大規模災害が発生した場合、これらの作業を通常の職員体制で対応することは極めて困難なため、災害発生後速やかに応援職員を派遣できる体制の構築が必要であると考え。比較的的自然災害が少ない本県では、東日本大震災などこれまでの大規模自然災害時には、その都度、職員を指定・召集し、県外派遣などを実施してきたところである。

国や近県の災害対応の状況に目を向けてみると、国土交通省では、被災地方公共団体等が行う被災状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大防止、被災地の早期復旧その他災害応急対策に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施するため、平成20年度に緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を設置し、人員・資機材の派遣体制、受入れ体制を整備している¹⁾。

また新潟県では、災害により被災を受けた県内外の地方公共団体における災害査定対応等の応援のため、平成20年から災害応援派遣体制として「県境なき技師団」を創設し、運用している²⁾。

本県では、国土交通省や他の地方公共団体の取り組みを参考としつつ、本県のこれまでの災害対応経験や地域特性等を踏まえた災害派遣制度を構築し、大規模災害時の初動期の迅速な復旧支援を図ることとした。

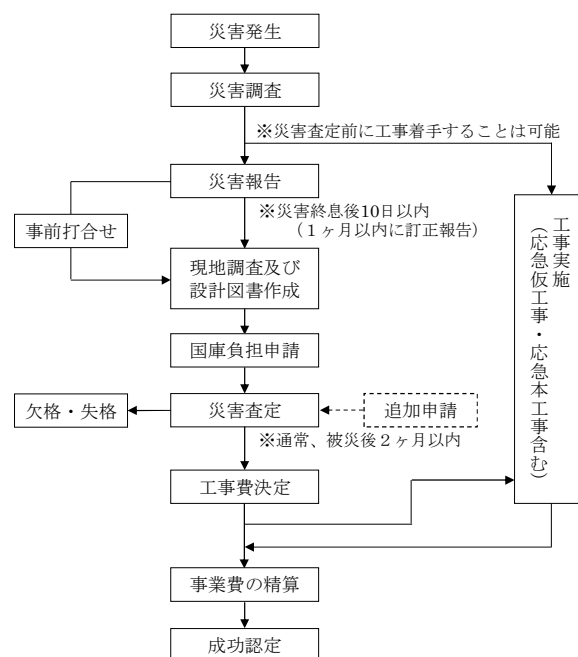


図-1 災害復旧事業手続きの流れ

2. 災害に強い組織づくり

大規模災害時に迅速かつ的確に対応するためには、派遣職員の事前選定や資機材の準備など、派遣体制の構築に加え、派遣職員が派遣先での確な業務を行うための技術力を身に付けておく必要もある。本県では、以下の基本方針により、災害に強い組織づくりの検討を行った。

- ・過去の災害派遣の経験を活かす
- ・地域性を考慮した相互応援体制を構築する
- ・市町村に対する支援体制を構築する
- ・技術職員の災害対応力の維持、強化を図る

図-2に災害に強い組織づくりに向けた取り組みの概要を示す。まず、県内外への派遣を想定した派遣職員の事前選定と派遣体制の構築を行う。また、派遣職員が派遣先での確な業務を行うための技術力を身に付けることを目的とした研修を実施する。なお、派遣職員は毎年更新し、新たな職員がこの制度を経験することにより、組織全体の災害対応力の向上へと繋げる。さらに、派遣された職員の経験や知見を制度や研修へ反映させる仕組みとする。

3. 災害派遣制度の構築

災害に強い組織づくり基本方針を踏まえ、災害派遣制度を構築する。派遣体制の検討にあたり、災害派遣経験者の経験や知見を反映するため、新潟県中越地震、東日本大震災における災害派遣者を対象としたアンケート調査及びワークショップを実施した。

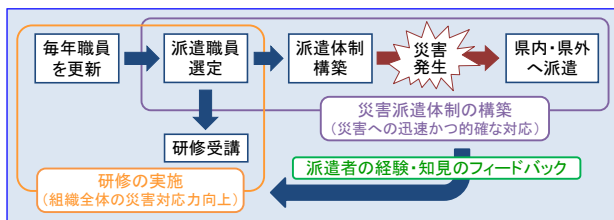


図-2 災害に強い組織づくりの概要

(1) 災害派遣制度「県土整備部災害派遣チーム」概要

図-3に災害派遣制度の概要を示す。災害時に派遣される職員は「県土整備部災害派遣チーム」と命名する。災害派遣チームの対象となる職員は、若手から中堅の技術職員である。また、災害派遣チーム登録職員数は過去の派遣実績から適切な規模を検討し、36名とした。派遣先は県内及び県外を想定している。

(2) 派遣体制

表-1のとおり、本県の地域特性等を考慮した派遣体制を構築した。

a) 県内派遣（土木事務所）

被害が全県下に及ぶ場合、各土木事務所において人員不足が想定されることから、県庁各課に所属する派遣職員を優先的に派遣する。特定の土木事務所管内など被害地域が限定される場合、迅速かつ地域性を踏まえた的確な対応を可能とするため、近隣の土木事務所

(1) 災害派遣チーム対象職員

対象職員は、県土整備部の職員のうち、以下に該当する者を除く技術職員とする。

〔対象除外職員〕

- ・ポスト係長以上の役職の職員
- ・事務職員
- ・市町村等他機関への派遣職員
- ・主査等現業職員
- ・建築、電気、機械、化学の各職員及び薬剤師

(2) 災害派遣チーム登録職員の選定

各所属の災害派遣チーム割当人数は、対象職員数に基づき1~2名とし、36名を選定する。

(3) 派遣体制

大規模災害発生時に土木事務所長等からの派遣要請や県土整備部として派遣が必要と判断した場合、災害派遣チームを派遣する。

【県内派遣体制】

- ・被害が全県下に及ぶ場合、県庁各課の派遣職員を優先して土木事務所等へ派遣する。
- ・被害地域が限定される場合、地域性を考慮し予め応援所属の優先順位を設定し、職員を派遣する。

【県外派遣体制】

- ・1班4人構成とした9班体制を構築し、班体制による派遣を基本とする。

〔班構成〕	リーダー	1名
	サブリーダー	1名
	メンバー	2名
	計	4名

図-3 災害派遣制度概要

表-1 派遣体制

派遣先		派遣期間	派遣体制
県内派遣	土木事務所	【短期】1ヶ月交代 【長期】適宜対応	【被害が全県下に及ぶ場合】 県庁各課に所属する派遣職員を優先的に派遣。派遣先所属及び人数は、派遣職員の居住性や派遣先所属の被災状況等を考慮し決定 【特定の土木管内など被害地域が限定される場合】 地域性を考慮し、応援所属の優先順位をあらかじめ設定
	市町村	【短期】1ヶ月交代 【長期】適宜対応	被災市町村が属する管内の土木事務所からの派遣を優先するが、当該土木事務所が被災し派遣が困難な場合は、地域性等を考慮し派遣方法を決定
県外派遣		【短期】1ヶ月交代※ 【長期】適宜対応(最大1年間) ※ 交代時は1週間の重複期間を設定	1班4人構成とした9班体制を構築し、班体制による派遣を基本(ただし、派遣先所属の受け入れ状況等により、必ずしも1班4人体制による派遣とは限らない)

■ 応援所属の優先順位(西毛地域)

被災土木 事務所	応援所属		
	第1順位	第2順位	第3順位
高崎	安中	富岡	藤岡
藤岡	高崎	安中	富岡
×富岡	←藤岡	高崎	安中
×安中	←富岡	←藤岡	←高崎



図-4 応援所属の優先順位と派遣イメージ(西毛地域)

から応援派遣する仕組みを構築し、あらかじめ応援所属の優先順位を設定した。図-4 に応援所属の優先順位と派遣イメージを示す。

b) 県内派遣(市町村)

県内35市町村のうち約5割の市町村で土木部門における技術職員がおらず、技術者不足が深刻であり、災害時に職員不足による的確な対応が困難な状況が予想される。そこで市町村への派遣も派遣体制に位置付け、被災市町村が属する管内の土木事務所からの派遣を優先とすることで、地域性や常時の連絡体制を活かした派遣が可能となる体制を構築した。

c) 県外派遣

東日本大震災等の過去の災害派遣経験から、班体制による派遣を想定し、1班4人、計9班体制を基本とし、被災地の要請に応じて対応することとした。派遣期間については、過去の派遣で効率的に機能したことから、短期派遣交代時は業務引継期間として1週間の重複期間を設定した。

4. 災害特別研修の実施

(1) 実施目的・課題

災害派遣チームが派遣先で迅速かつ的確に災害復旧支援業務を行える技術を習得し、また効率的な対応を可能とする協力体制を身に付けるため、災害派遣チームを対象とした研修を実施し、災害対応力の向上を図る。組織全体の技術力の底上げに繋がる仕組みづくりが課題であり、以下のポイントを踏まえ、災害特別研修を創設し、災害派遣チームの義務研修として災害派遣制度に位置付ける。

表-2 平成26年度災害特別研修内容

5月13日(1日目)	
災害査定における留意点及び事例紹介 (講師:国土交通省水管理・国土保全局防災課 災害査定官)	
復旧工法の提案 ~グループワーク~	
5月14日(2日目)	
模擬査定 (講師:国土交通省水管理・国土保全局防災課 災害査定官 関東地方整備局職員)	
【実地査定(河川災)】 利根川(左岸) 渋川市分郷八崎	
【実地査定(道路災)】 (主)大胡赤城線 前橋市富士見町	
【机上査定(河川災)】 桂川(右岸) 前橋市東大室町	

【災害特別研修のポイント】

- ・災害調査～査定までの一連の業務の確認と実践を想定した研修
- ・大規模災害経験者による派遣先での初期対応のノウハウの伝承
- ・災害派遣経験者や実務経験豊富な職員と若手職員を組み合わせた技術の伝承、協力体制の醸成

(2) 研修実施状況

上記のポイントを踏まえた研修を創設し、平成26年度から実施している。平成26年度の研修内容は次のとおりである。

a) 平成26年度災害特別研修概要

日時:平成26年5月13日(火)、14日(水)
講師:国土交通省水管理・国土保全局防災課災害査定官、関東地方整備局職員3名他
受講生:災害派遣チーム登録職員 36名
研修内容:近年の被災箇所を題材とした模擬査定等の実践的研修(詳細は表-2参照)

b) 模擬査定

近年の道路災害、河川災害による被災箇所を題材とし、模擬査定を実施した。模擬査定は実地査定、机上査定を行い、講師には査定官、立会官役として国土交通省水管理・国土保全局防災課災害査定官、関東地方整備局職員を招聘し、実践を想定した査定を取り入れた研修とした。

c) グループワーク形式による復旧工法の検討

災害派遣チームの協力体制を醸成するため、実際の派遣チームごとにグループワーク形式による復旧



写真-1 模擬査定（実地査定）実施状況

工法提案から模擬査定までを一連の講義で受講するプログラムとした。

d) 実施結果

研修実施後のアンケートでは、災害時の業務に役立つといった意見が多く、効果的な研修となった。

【受講者の主な意見】

- ・災害査定官による模擬査定であったため、緊張感があり、今後の業務に役立つと感じた
- ・実践研修であるため、災害査定時において査定官、立会官が着目するポイントが学習できた
- ・実際の査定時にはできない査定官との意見交換は、非常に有意義である

5. これまでの運用と成果

(1) これまでの運用

平成25年度から災害派遣制度構築の検討を始め、同年10月に暫定運用、平成26年4月に本格運用を開始した。暫定運用開始以降、平成26年2月の豪雪や同年6月の地すべり災害に対応するため、災害派遣制度に基づき災害派遣チームを派遣している。また毎年災害特別研修を実施し、災害派遣チーム登録職員の災害対応力向上に努めている。

(2) 災害派遣チーム派遣実績

災害派遣制度の暫定運用開始以降、県外への派遣実績はないが、平成26年2月14日～15日の豪雪対応、平成26年6月に発生した地すべり災害対応として、災害派遣チームからのべ14名を県内土木事務所へ派遣している。表-3にこれまでの派遣実績を示す。

a) 平成26年2月豪雪対応

平成26年2月14日から15日にかけて本県を襲った記録的な大雪により、県西部、北部地域などの山間部では孤立地区が発生した。そこで、管内に孤立地区が発生した市町村のある土木事務所に、県庁所属の災害派遣チーム12名をのべ54人・日派遣した。派遣先では、市町村が必要とする支援の情報収集や、

表-3 これまでの派遣実績

対応災害	派遣期間	派遣先	派遣者数	派遣のべ総数
豪雪	平成26年2月18日～25日	西毛・北毛地域等6土木事務所	12名	54人・日
地すべり	平成26年8月1日～平成27年3月31日	富岡土木事務所 下仁田事業所	2名	243人・日



写真-2 TEC-FORCE 及び県による除雪計画打合せ状況

緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）との除雪計画の調整等を行い、孤立地区の早期解消等に努めた。

b) 平成26年6月地すべり災害対応

平成26年6月に世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の荒船風穴へのアクセス道路である国道254号（旧道）ほか1路線で地すべり災害が発生した。突発的な災害発生による技術者不足に対応するため、富岡土木事務所下仁田事業所に災害派遣チーム2名（4ヶ月毎の途中交代）を派遣した。災害復旧及びその他危険箇所の調査・安全対策を担当し、早期の道路開通に努めた。

6. おわりに

本制度の構築により大規模災害への事前準備体制を整え、迅速な対応が可能となったが、資機材の準備体制や派遣職員の受入れ体制など、検討すべき課題も多い。これらの課題について引き続き検討を進めるとともに、これまでの派遣実績や研修成果を検証し、制度内容の改善に取り組んでいきたい。

今後も本制度を継続し、組織全体に効果を波及させることで、全技術職員の技術力向上による災害に強い組織づくりを進めていきたい。

参考文献・資料

- 1) 国土交通省：国土交通省 HP（TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊））
<http://www.mlit.go.jp/river/bousai/pch-tec/index.html>
- 2) 全国知事会：全国知事会 HP（先進政策バンク）
<http://www.nga.gr.jp/app/seisaku/details/2898/>